

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第65号
2022(令和4)年11月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

スーピマ綿に間違いない — 全国コットンサミットの成果 —

全国コットンサミットが、4年ぶりに開催されました。「2022全国コットンサミットin松阪」です。今回の開催地は三重県。11月13日(日)に松阪市産業振興センターを会場に本大会、翌14日(月)には予約者のみを対象とした見学会が実施され、正藍染めと力織機による製織に取り組む(株)御糸織物の工場や、神服織機殿(かんはとりはたどの)神社、綿栽培畑等を見学しました。

全国コットンサミットとは、「2011年に始まった全国のサミット。綿花栽培を手掛ける人々が集い、語らう場として、全国コットンサミットを企画、運営しています。大阪の岸和田から始まり、全国津々浦々にサミットの輪を広げ、絆をもちたいと思っています。」と、全国コットンサミット実行委員会のHPに記されています。第1回大阪府岸和田市(2011)につづき、第2回鳥取県境港市(2012)、第3回奈良県広陵町(2013)、第4回愛知県蒲郡市(2014)、第5回長野県高山村(2016)、第6回兵庫県加古川市(2017)、第7回福島県いわき市(2018)と、綿作がさかんに行われている各地域を会場に開催されてきました。

全国コットンサミットの最大の魅力は、全国各地で実際に綿を栽培されている方や、綿の加工に取り組んでおられる方、関連団体の方々に直接お会いできることです。そして、そこで交わされる何気ない会話が貴重な情報となり、これからの活動に大きな刺激と指針を与えてくれる契機となります。

今回の会場となった松阪市産業振興センターの1階には、常設の「松阪もめん手織りセンター」があり、松阪もめんの機織りを体験することができます。美しい松阪もめんの反物や加工品を手にとってみることもできます。2階には今回のサミットに合わせて特設された、綿繰り・糸紡ぎの体験コーナー、綿花栽培技術相談コーナーがあり、別室には関連団体による展示・販売ブースが設けられていました。出展者は、特定非営利活動法人日本オーガニックコットン協会(東京都)、NPO法人ペットチャルカの広場(大阪市)、綿の里(福島県喜多方市)、かこっとな株式会社(兵庫県加古川市)、一般社団法人ふくしまオーガニックコットンプロジェクト(福島県いわき市)、イエロー・ライン・プロジェクト(大阪府柏原市、大阪教育大学内)、オークラ工業株式会社(兵庫県加古川市)、一般財団法人境港市農業公社(鳥取県境港市)、タビオ奈良(奈良県北葛城郡広陵町)ほか。綿花栽培技術相談コーナーでは地元で綿花栽培に取り組む亀さんの家代表や、森下コットンの方ともお話しすることができ、見学会では千葉県で綿の栽培と加工販売等を展開する有限会社八千代共生会しもつふさ学舎の方、兵庫県赤穂市の赤穂緞通生産者の会の方ともご縁をいただきました。

これまで品種を特定することができていなかった洋綿、アブランドとの交雑が考えられながらも長らく「品種確認中」としていた当方の洋綿が、バルバデンセの一種、「超長繊維綿のスーピマ綿に間違いないでしょう」という鑑定を得たのも、大きな収穫の一つとなりました。



機織り中の松阪もめん

本会場入り口の看板

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和9年9月26日～令和4年11月25日)

群馬県1、千葉県1、東京都2、石川県1、愛知県1、大阪府2、奈良県2、島根県2、岡山県1、徳島県1、愛媛県1、福岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和4年9月26日～令和4年11月25日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数3組5名



《綿の栽培記録 2022》－ 令和4年度版 その5－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和4年9月24日～11月22日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

10月中旬から11月中旬にかけて好天がつづき、この時期としては珍しく美しく吹いたコットンボール、綿花を収穫することができました。綿が太陽の光と乾燥を好むということを実感しました。

《ワークショップ：綿から綿へ。講師》 令和4年10月15日(土)、23日(日)、29日(土)

なら歴史芸術文化村(奈良県天理市杣之内町)を会場に行われたワークショップ「綿から綿へ～畑の綿花が布になるまで～」の講師を担当。屋外の芝生エリアに綿の木を展示し、枝についているコットンボールが布になるまでの工程を、皆さんにご覧いただくとともに、体験していただきました。内容は①綿繰り、②綿打ち(竹弓、唐弓)、③じんきづくり、④糸紡ぎ(糸車、スピンドル)、⑤織り(ダンボール織り)。

《収穫祭2022：綿畑の観察&草木染め、を開催》 令和4年11月3日(木)

さわやかな秋空のもと、10時30分に開始。綿の収穫状況と交雑について概略説明の後、草木染めを行いました。今回の染材は銀梅花(ギンバイカ)の実。椿の灰汁(あく)で媒染すると、紫色から緑色に変化。草木染めの醍醐味です。収穫祭は2年ぶりの開催で、5名の方にご参加いただきました。

《2022全国コットンサミットin松阪、に参加》 令和4年11月13日(日)、14日(月)

本大会は三重県松阪市産業振興センターを会場に開催され、全国の綿の栽培農家さんと交流する機会を得ました。長らく品種確認中であつた超長繊維綿がスーパー綿であることが判明したの大きな成果。2日目の見学会では、(株)御絲織物の正藍染め工程、旧式力織機による製織工程を見学。圧巻でした。

《京都ノートルダム女子大学にて、特別授業を担当》 令和4年11月17日(木)

「日本年中行事論」の学外ゲスト講師としてお招きいただき、1コマ90分を担当。「綿から綿へ：ひと粒の種が布になるまで」というタイトルでPPTと動画を用いて授業を展開。副題は「綿作農家の一ねん」。一年と一念を掛け、念に於いては大蔵永常『綿圃要務』と本居宣長『初山踏』を紹介。受講生は約70名。

下段写真は左から、文化村ワークショップ、草木染め、(株)御絲織物の藍染め場、特別授業における教室展示の様子です。



【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)
令和4年9月26日～令和4年11月25日 (作業実日数28日) 糸の総量57.0g (15.2匁) 総時間198分
※1分間≒0.288g 1時間≒17.3g (4.6匁)

【研修等の記録】

- ・令和4年10月15日 なら歴史芸術文化村にてワークショップ「綿から綿へ」1回目の講師を担当。
- ・令和4年10月23日 なら歴史芸術文化村にてワークショップ「綿から綿へ」2回目の講師を担当。
- ・令和4年10月27日 奈良県食と農の振興部豊かな食と農の振興課よりの依頼にてビデオ収録を受ける。
- ・令和4年10月29日 なら歴史芸術文化村にてワークショップ「綿から綿へ」3回目の講師を担当
- ・令和4年11月03日 H. A. M. A. 木綿庵の収穫祭：「2022秋・綿畑の観察&草木染め」を開催
- ・令和4年11月13日 「2022全国コットンサミットin松阪」(三重県松阪市)の本大会に参加。
- ・令和4年11月14日 「2022全国コットンサミットin松阪」の見学会に参加。御絲織物株式会社他見学。
- ・令和4年11月17日 京都ノートルダム女子大学(京都市上京区)にて、特別授業「綿から綿へ」担当。